

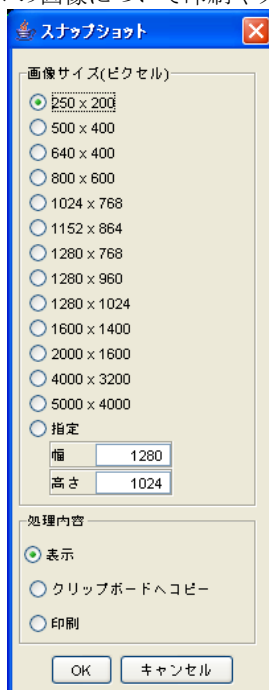
1. Java2 のバージョンを 1.4.2 にしました

バージョン 1.** では Java2 のバージョンは 1.3.1 と 1.4.2 でしたが、GeoCoach3D 2.00 からは Java2 1.4.2 のみとします。画像イメージのクリップボードへのコピーなど Java2 1.4.2 で導入された機能を使用するためです。

2. スナップショット

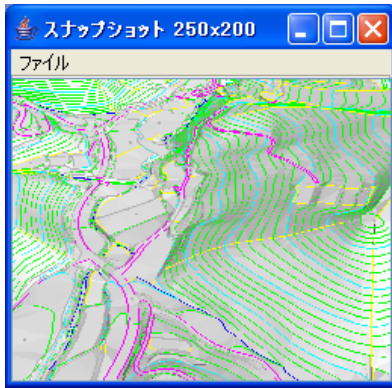
新メニュー[ファイル]-[スナップショット]を追加しました。
以下は、操作説明書からの抜粋です。

3Dパネルの画像について印刷やクリップボードへのコピーができます。

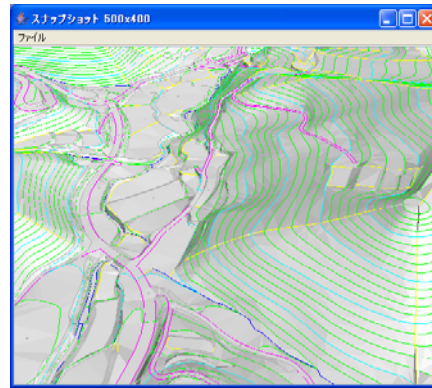


【画像サイズ】 作成する画像のサイズを指定します。サイズが大きいほど、より高解像度の画像が作成できます。3Dパネルの画像より高解像度の画像を作成することができます。サイズの縦横比が3Dパネルと異なる場合、3Dパネルの横方向を合わせます。高解像度の画像ほど、メモリ使用量が大きくなり、作成に時間がかかります。

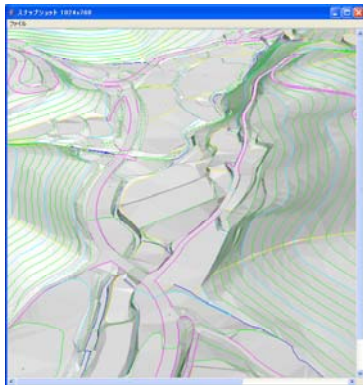
【表示】 ウィンドウを開き、作成した画像を表示します。
ファイルメニューには「クリップボードへコピー」と「印刷」があります。



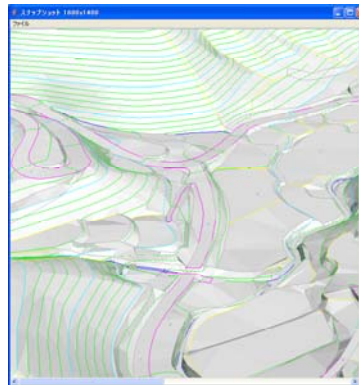
250x200



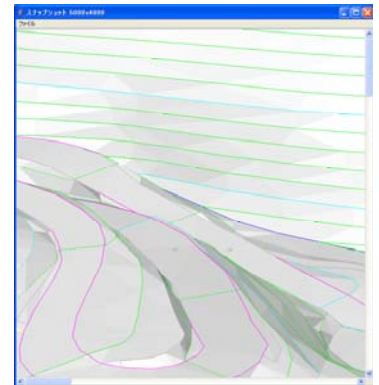
500x400



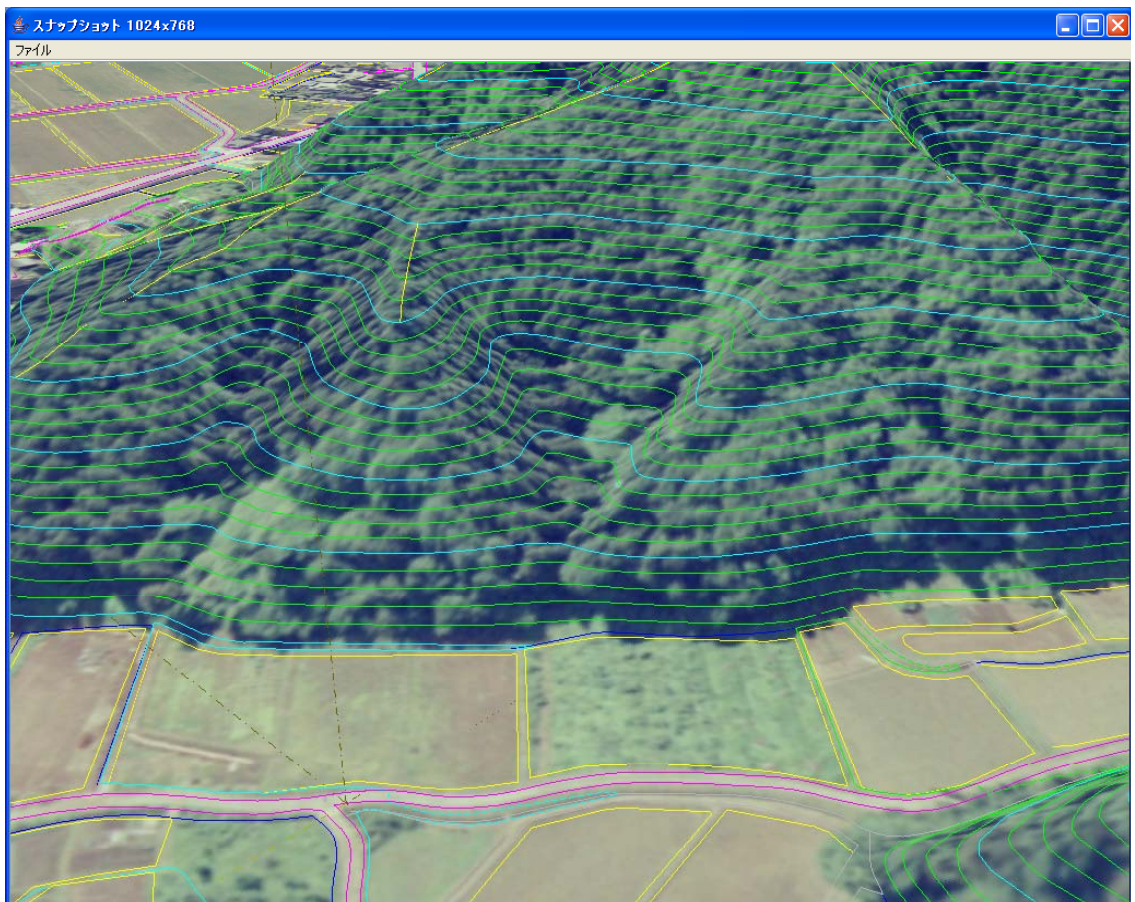
1024x768 (左上部分)



1600x1400 (左上部分)



5000x4000 (左上部分)

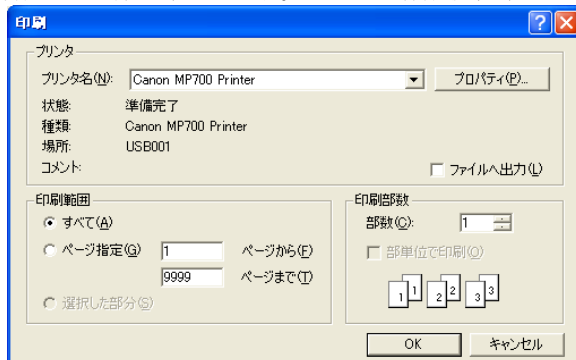


DM と VRML の重ね合わせ

【クリップボードへコピー】作成した画像をクリップボードへコピーします。他のアプリケーションで貼り付けることが
2/4

できます。

【印刷】作成した画像を印刷します。イメージ作成後、印刷ダイアログを表示します。



ページの設定にかかわらず、1ページのみ印刷します。

背景色はメニュー[表示]-[背景色]での変更できます。参照点を示す一点鎖線の表示は[データ]パネルの[データ]のポップアップメニュー[参照点位置表示(ON/OFF)]で切り替えることができます。

TINデータのみ開かれている場合(DMデータが開かれていない場合)、[データ]パネルの各ノードの[ピッキング]をONにすることで、TIN上の点を参照点にすることができます。

3. 注記と注記の重なり検出

[チェック]-[交差チェック]に注記と注記の重なりを検出するオプションを追加しました。また、注記の文字列の範囲をしめす矩形を破線で表示するようにしました。

4. 注記の全角スペースの検出と削除

[チェック]-[注記チェック]に注記の文字列に含まれる全角スペースの検出と削除機能を追加しました。

5. 地図記号を追加しました。

1/500, 1/1000の様式の記号を一部追加しました。また1/2500で欠如していた6215(墓地), 6211(空地), 6341(砂地)を追加しました。

6. VRMLのオルソ画像をそのまま表示

VRMLのオルソ画像が大きい場合1024x1024に圧縮して粗く表示していましたが、圧縮しないでそのままの解像度で表示することができるようになりました。[ファイル]-[参照 TIN]-[参照 VRML(.vrml)]のダイアログで指定できます。

7. TINを一括して保存

以下は、操作説明書からの抜粋です。

8. チェックリストと確認リストに上下移動ボタンを追加

[チェックリスト]、[確認リスト]パネルに選択行を上下、および最初と最後に移動するボタンを追加しました。

